

# ながさきCOC+通信

## 主な活動報告

日付	項目
5月18日	COC+産学官情報交換会を開催しました。 COC+地方創生推進本部会議を開催しました。
5月26日	第1回「学生と企業の交流会」が長崎大学で開催されました。
6月5日	長崎大学地方人材育成学士プログラム「長崎地域学」を開講しました。
6月8日	「ながさき新卒面談会」が長崎県立総合体育館で開催されました。
6月16日	COC+教育プログラム開発委員会を開催しました。

## 今後の主な活動予定

日付	項目
7月7日	第2回「学生と企業の交流会」が開催されます。
7月12日	採用担当者向け「プレゼン力UPセミナー」が開催されます（長崎会場）。
7月13日	採用担当者向け「プレゼン力UPセミナー」が開催されます（佐世保会場）。
10月21日	「NAGASAKIしごとみらい博」が開催されます。
10月 (日程未定)	公開講座「地方創生について語る（仮題）」が開催予定です。

## メイントピックス

- **イベント開催報告** 学生と企業の交流会・ながさき新卒面談会
- **私の大学生時代** 長崎大学キャリア支援センター助教 矢野香先生
- **“いちおし”お食事処紹介** 今回は長崎県立大学からの紹介です
- **新聞で見つけたトリビア** 長崎新聞『大学入試改革』について
- **長崎よかところ、後輩来たれ!** 長崎大学病院薬剤部・岩永真理恵さん
- **ながさきの風景スナップ** 安徳コーディネーターの投稿です
- **COC+コーディネーターの独り言** 「平戸よいところ、一度はおいで！」

編集室より：本ニュースレターは、長崎大学、長崎国際大学、長崎県立大学、長崎純心大学、長崎短期大学などが産官学連携により進めている地方創生推進事業（COC+）をさまざまな視点から紹介していくものです。ご意見やご質問は[antoku@nagasaki-u.ac.jp](mailto:antoku@nagasaki-u.ac.jp)までお寄せください。投稿もお待ちしております。次号の発行は10月1日を予定しています。

### <第1回学生と企業の交流会>

5月26日（金）、長崎大学文教キャンパス内にて「第1回 学生と企業との交流会」を開催しました。県内企業7社に対し、41名の学生に参加していただき、すごく活気があるなかにも身近で楽しく、学生と企業の方が触れ合い、交流していただきました。学生時代を過ごしている長崎県にどんな企業があり、どんな人たちが、どんな仕事をしているのか、を知っていただくいい機会になったと思います。

7月7日（金）に第2回を開催しますので、ぜひぜひご参加くださいませ。



【会場全景】



【ANAテレマート様】



【十八銀行様】



【チューリッヒ保険会社様】



【不動技研工業様】



【長崎新聞社様】



【日特エンジニアリング様】



【メモリード様】

## 6/8開催：ながさき新卒面談会

### <ながさき新卒面談会>

6月8日（木）、長崎県立総合体育館で新卒面談会が開催され、県内企業63社、学生185名が参加しました。

6月1日から企業の選考が開始となり、例年よりも内定出しが早まっているという話も聞きますが、今回の面談会は、興味のある事業所や業界、さらに様々な事業所や業界を知る機会にもなったと思います。このような面談会などは積極的に活用して自分の視野を広げてほしいものです。

何か新しい発見や気づき、新たな企業との出会いもあるかもしれませんよ！



## 私の大学生時代

## 私の大学生時代

20年以上前の記憶を呼びおこすため、実家に戻り大学の卒業アルバムを引っ張り出しながら今回の原稿を引き受けたことを後悔した。なぜなら、大学生の私は必要最低限しか大学に行っていなかったからだ。もちろん単位を落としたことはないし、留年もしていない。今でもゼミの指導教授には懇意にいただいているので、そこまで態度の悪い学生ではなかったはずだ(…そう願う)。



当時の写真：電リクオペレーターのアバイト中

私は長崎市にある活水女子大学の学生だった。しかし、南山手地区に留まらず長崎県全体が私のキャンパスだった(都合よく表現すると)。

県内全大学の学生が加盟するサークルに入り、長崎大学や長崎総合科学大学、長崎ウエスレヤン短期大学(当時)など各大学に友達がいた。彼らと一緒に各大学のキャンパスに潜入したり、いろんな短期アルバイトをしたりした。

例えばあるときは、コンサートスタッフ。アーティストの控室にお茶を出し、近くで有名人を見て喜ぶミーハーな学生だった。

またあるときは、ラジオ局の電リクオペレーター。当時ラジオ局ではリスナーからのリクエスト曲を流すという番組が流行していた。その電話対応の仕事である(メールやHP、FAXではないところに時代を感じる)。

このバイトで鍛えられたのが音声コミュニケーション力。「もしもし」という第一声だけで常連さんの声を聴き分けたり(かかってきた電話番号が表示されるような便利なサービスは無い時代)、話が長い相手や「リクエストがかからない」という苦情電話の相手に、いかに気持ちよく電話を切ってもらうかを工夫したり。

これらの経験が、後に放送局採用試験を受けることに、そしてさらには「音声非言語」という現在の研究分野へとつながってくる。

「点と点をつなぐ (connecting the dots) 」

これはスティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式スピーチで話した言葉。「人生に無駄なことはない、時を経て点と点をつなぐように異なる場面で生きてくる」というメッセージである。

大学生の皆さんは、いままさにこの一つ一つの「点」をつくっている最中だろう。どんな「点」を経験し、どんな人生・キャリアをつくるのか？それはあなた次第！COC+は、あなたの「点」を応援します。

(長崎大学 キャリア支援センター助教 矢野 香)

## 長崎県立大学 “いちおし”お食事処

## 新聞で見つけたトリビア

## 長崎県立大学 “いちおし”お食事処

周辺には大学生がたくさん住んでおり、サラリーマンをはじめ多くの人々が利用する千歳町電停の前のビルの2階に、からあげ専門店「Kitchen Hut」があります。

山小屋(=Hut)をイメージし、店全体に木のぬくもりが感じられる中、このお店の看板メニュー「竜田揚げ定食」でお腹も心も満たされます。ご飯の量を調整することができ、その日のお腹の空き具合と相談することもできます。そしてなんと、ランチタイムは限定で竜田揚げ弁当もワンコインで頂くことができ、お得！気さくに話しかけてくれるマスターとの会話も魅力の一つです。

ほっと一息、住吉の山小屋で愛情たっぷりの竜田揚げを頂きませんか？

住所：長崎市若葉町10-11 TEL 095-844-2843

(紹介者：長崎県立大学 学生広報スタッフ  
国際情報学部 情報メディア学科 3年 荒木 風花)



## 新聞で見つけたトリビア

時計の針は戻らない。

ドラえもんがいれば別だ。先に公開された映画はよくできていた。そう、タイムマシンが無かったって、タイムベルトがあるのだから。

昨年から新聞を飾る教育改革（近日では平成29年5月17日長崎新聞『大学入試改革』）だが、この数年で日本は本気で実行しようとしている。大学入試センター試験に代わる新たな試験導入というニュースによって、その一端は大学生も知るところである。そして、それは大学の入口だけでなく、大学生活までにも連動する改革である。

昔、大学生だった人たちも、現在進行形の人たちも学ぶことの大切さに気づかされた経験を少なからず持っているだろうと思う。自分の中の引き出しは多い方がよいことを大人は知っている。だから、「あの時、もっと学ぶべきだった」「もう一度大学生に戻れるなら、もっと充実した生活を送る」と。

しかし、大切なことは、世界には情報が溢れ、様々な文化・思想があることを知り・学ぶチャンスが私たちの周りに用意されていることに気づくかどうかである。もちろん、チャンスには大学の存在が不可欠であり、改革によって、その役割は益々高まる。大学は、伝統的受験者にとどまらない国民・県民・市民の学びの場になる（ならなければならない）。時計の針を戻す必要はないのだ。

(長崎純心大学 教務課長 永友 貴之)

## 長崎よかところ、後輩来たれ！

## ながさきの風景スナップ

## 長崎よかところ、後輩来たれ！

卒業後、長崎大学病院へ就職し5年が経ちました。何となく地元である長崎市内に戻ってきたのですが、今思い返すと良い選択だったと思います。

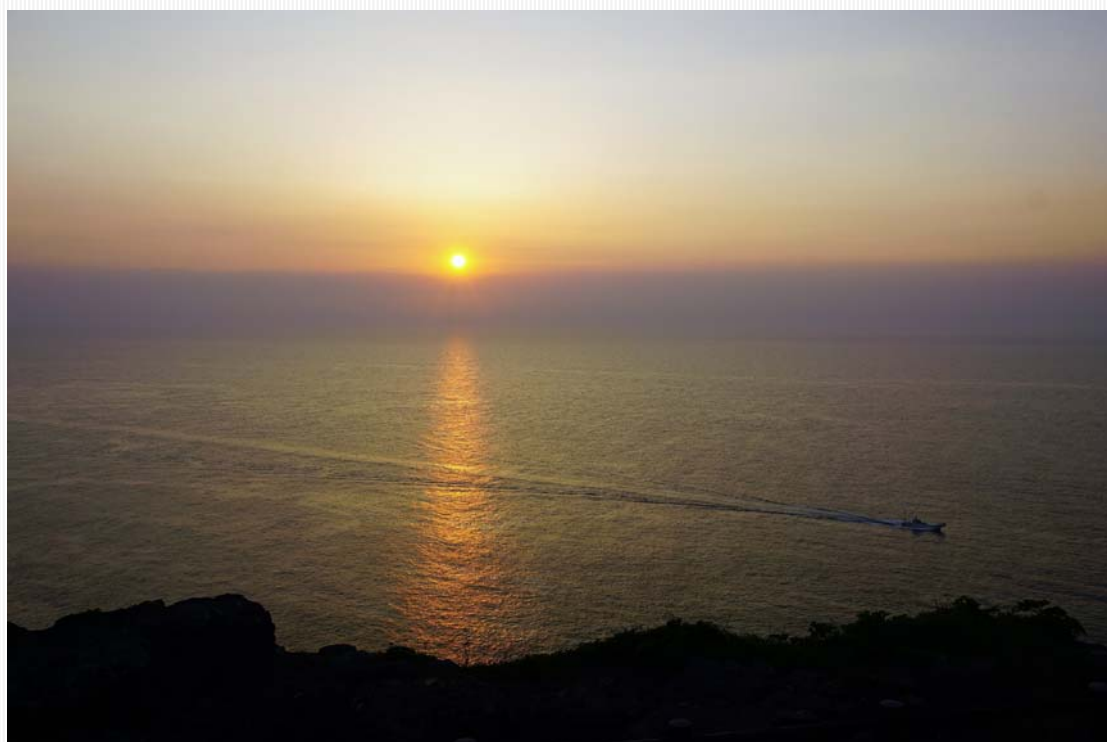
私は薬学部1期生で先輩がいません。そんな中、長崎県病院薬剤師会では勉強会が多く、他院の経験豊富な薬剤師の方の話を聞けたり大学の友達と定期的に会えることは、就職した当初とても心強かったことを覚えています。

長崎県には全国に先駆けて病院と地域を繋ぐ「あじさいネット」というシステムがあり、地域連携が盛んです。連携が必要な患者さんの退院時、入院中の担当スタッフ（主治医・薬剤師・看護師）とかかりつけ医・薬局薬剤師・訪問看護師等による合同カンファが開かれ情報交換した後、調剤薬局でも病院のカルテを閲覧して検査値等が把握でき質の高い服薬指導が行えると思います。

これから就職を考える皆さんも是非長崎に就職して、地域で活躍できる薬剤師を目指してみませんか。

（長崎大学病院 薬剤部 岩永 真理恵（長崎国際大学薬学部卒））

## ながさきの風景スナップ



東シナ海を望む平戸市生月（イキツキ）の夕陽

島名は、中国から帰国する遣隋使・遣唐使が、船上からこの島を見つけると、無事に帰ってこられたと安心してホッと息をついたことから命名されたといわれている。

（1/80秒 f/6.3 24mm ISO100）

## COC+コーディネーターの独り言

## COC+コーディネーターの独り言

「平戸よいとこ、一度はおいで！」

今年のゴールデンウィークでは、柄にもなく「平戸お庭めぐり」に行ってきました。平戸藩松浦熙公別邸跡「梅谷津偕楽園」資料館に入ると、古文書展示ケースのなかに「蹴鞠（けまり）見物心得帖」という冊子が展示されていました。蹴鞠を見物する人のための心得帖？ がぜん蹴鞠に興味をわき、庭先の蹴鞠コート（？）跡に足を運びました。

今はすっかり草に覆われてしまっていますが、当時はコート（？）の四隅に松、柳、梅、楓の木が植えられ、毬（メスの鹿の皮で作られたもの）をその高さ以上に蹴ることはルール違反だったそうです。以前、バリ島では椰子の高さ以上のホテルは許可されなかったということ思い出しました。またプレーの仕方も、相手のいないところや相手の打ちにくいところに球を打つテニスと異なり、出来るだけ相手（パートナー）の取りやすいところに毬を蹴ることが求められます。それが何回続くか、フォームが美しいかどうかで判定されるという極めて平和志向のスポーツです。

今も蹴鞠保存会があるそうなので、自然尊重と平和主義を身につけることが出来る日本伝統のスポーツとして、東京オリンピックで世界中の人に紹介してはどうでしょうか。

佐世保へ帰る途中、瀬戸市場の食堂で大好物の海鮮丼（1,100円）。ダイエット中なので「ご飯半分に」とお願いしました。丼を持ってきてくれた可愛い店員さんが、私の耳元でそっと「イカを一切れ多くしておきましたよ♥」・・・はありませんでした。残念！

なお、永年読み込まれたことがわかる「蹴鞠見物心得帖」原本の横には、地元の書道家による写本が置かれていて、中を読むことが出来るとのこと。こんなところにも地方文化の奥深さを感じた次第です。

（長崎大学 地方創生推進本部 COC+推進コーディネーター 安徳 勝憲）  
e-mail : antoku@nagasaki-u.ac.jp

